

特 116
224

懿
徳
の
光



始



持116
224

竹本先生略傳

竹本先生ハ弘化三年十二月二十四日廣島白島ニ於テ呱呱ノ聲ヲ舉ゲラレ幼名ヲ善槌ト云ヒ後ニ政槌、源三郎
 檢之助、正任、檢吾ト改メ其後ニ節ト改メラル正任トイヘルハ其ノ諱ナリ父ハ大十郎正順トイヒ世々藝藩ニ
 仕フ先生幼時ヨリ學ヲ好ミ同學ノ友トシテ殊ニ親シカリシハ佐藤正氏ニテ全氏ハ軍人トナリテ赫々タル武動
 ノ雷名ヲ轟カサレ先生ハ教育家トシテ身ヲ立テ數多ノ英才ヲ育成シテ文教ノ芳名ヲ殘サル共ニ世人ノ欽慕景
 仰措ク能ハザル所ナリ先生ハ次男ナレドモ兄爲之進正敬天逝セラレシヲ以テ嫡子トナリ十八歳ノ時ヨリ藩内
 ノ教育ニ従事セラル。サレド自己ノ研學修養ヲ怠ラズ明治七年十一月年二十九歳ノ時縣立師範學校ニ入學シ
 同八年四月卒業、同九年五月再ビ公立師範學校ニ入學シ同年六月卒業。爾來益々奮勵シテ育英事業ヲ盡
 セラレ前後ヲ通ジテ三十有七年ノ久シキニ及ビシモ拮据涇礪諄々トシテ誨ヘテ倦マズ其ノ間ノ子弟始ビ一
 餘名ニ垂ントス而シテ佐伯中學校ニ赴任セラレシ頃ヨリ佐伯高等小學校ノ初ニ至ルマデ十數年間、寄宿舎ノ
 設アリテ郡内ハ勿論遠ク縣外ヨリモ來リ學ブ者多カリシガ先生ハ常ニ校内ニ住シテ舍監ノ任務ヲ兼テラレ居
 常謹嚴我が居室ニ在ルトキモ常ニ室ノ中央ニ机ヲ置キ端坐之ニ向ヒ日夜修養手ニ卷ヲ釋タズ道ヲ行クニモ直
 視直行公務ヲ執ラル、際モ甚ダ嚴格酷暑ノ候ト雖モ洋服ノ上衣ヲ脱セラレシコトナク公文書ハ必ズ楷書ヲ以
 テセラル而シテ其ノ門下ヲ教養セラル、ヤ懇篤切實訓戒嚴正ニシテ毫モ假借スル所ナシ然レドモ膝ヲ交フル



トキハ澹如トシテ語り意ニ適フコトアレバ嬉々トシテ笑ハレ温情定ニ掬スベキモノアリ酒量多カラザリシモ之ヲ嗜ミ宴席ニ侍リテ微醉面ニ紅葉ヲ散ラスニ至ルトキハ其ノ席ニ相應ハシキ狂歌ヲ詠ミテ興ヲ添ヘラル、コト屢々ナリキ先生趣味多ク詩文書畫及ビ歌俳ヲ善クシ詩文書畫ニハ嘯雲子文又ハ澹雅堂等ノ號ヲ用ヒ和歌ニハ正任、俳句ニハ此君ノ雅號ヲ用ヒラル。斯ノ如ク自ラ儀表トナリ身ヲ以テ衆ヲ率キラル、ニヨリ子弟自ラ其ノ感化ヲ受ケ日々ノ登校ニ悉ク袴ヲ著ケ夏季ト雖モ浴衣ヲ着スルモノ一人モナク一般ニ實力アリ筆跡ノ美ナリシト寄宿生ノ操行善良ニシテ洗湯ニ行キシトキニモ履物ノ整頓マデ正シカリシコトナドハ當時定評アリシ特色ニテ學識德行並ビ進ミ地方ノ教育益々振興シ有爲ノ人材彬々トシテ輩出スルニ至レリ

先生ハ明治三十年七月突然山縣郡ニ轉勤セラル、コト、ナリシモ十數年間住ミ馴レラレシ第二ノ故郷トモ謂フベキ土地ヲバ如何ニモ去リ難カリケン家族ヲバ觀音村佐方田尾ノ寓居ニ殘シ置キ單身赴任セラレ夏冬季休業ノ時ノミ歸省セラル、ヲ例トセリ然ルニ明治三十四年七月末歸省セラレシ際腸ヲ痛メラレ感冒之ニ加ハリ發熱衰弱甚ダシク病益々重リテ藥石更ニ其ノ効ヲ奏セズ遂ニ八月十三日溘キ露ト消エ失セラル享年時ニ五十六歳ナリキ

葬式ノ時導師タリシ潮音寺住職ヨリ贈ラレシ戒名左ノ如シ

恭禮院厚學義節居士

竹本先生履歷

父諱ハ正順大十郎ト稱ス(實ハ上坂新助昌遙三男ニシテ竹本傳左衛門正純ノ養子トナリシナリ)

母ハ竹本傳左衛門二女、弘化三丙午年十二月二十四日廣島白島ニ於テ生ル幼名善槌後ニ政槌、源三郎、檢之助、正任、檢吾ト改メ其後ニ節ト改ム安政六己未年九月兄爲之進正敬病死セシヲ以テ父大十郎ヨリ願出デ二男ナルモ嫡子トナル時ニ年十四歳

全七庚申年正月殿様へ初テ部屋住御禮申上ル

文久三癸亥年七月二十三日學問所ニ於テ句讀師加被申付金一兩毎歳被下之時ニ十八歳

元治元甲子年七月廿三日父大十郎病死同年九月廿日於御城亡父ノ跡目被仰付知行高百貳拾石被下同年九月二十日御番頭寺西雅樂殿ヨリ左ノ達シアリ

御自分儀此度長州御追討御先鋒之爲蒙仰候ニ付御出陣御供仰付候條可被得其意候以上

同年十一月十四日佐伯郡草津驛へ出張同廿八日同郡廿日市驛へ警衛トシテ出張同年十二月朔日歸家

同年十二月廿八日於御城左ノ通り被下

一金 四 兩 竹 本 源 三 郎

右此度長州追討御先鋒被爲蒙仰候ニ付去ル十一月十四日御先立被仰付被下之

慶應元乙丑年四月二十九日此以後御番ノ餘暇學校へ相勤候様頭寺西殿ヨリ申來ル
翌五月朔日學校ニ於テ學事方相勤候
同年十二月廿七日於學問所御銀頂戴

一銀 五 兩

竹 本 源 三 郎

右ハ御番餘暇學問所へ罷出デ出精ニ付被下之

同二丙寅年七月廿八日急速出張被仰付上田主水殿出帳所軍目付相勤候様頭寺西殿達有之同夜佐伯郡上伏谷村
本陣大通寺へ出張ス同年八月十三日上田主水殿人數御城下引揚仰出候ニ付御自分儀モ同様引揚候様被仰出候
旨御年寄衆ヨリ達有翌十四日歸家ス

同年十月二日是迄西口御警衛トシテ佐伯郡津田村へ出張致居候處頭寺西殿ヨリ達アリ津田村發足歸家ス

同年十月廿四日御城ニ於テ御奥小姓仰付

同年十二月晦日是迄御番餘暇學問所へ罷出授方出精致候ニ付金貳百疋頂戴ス

全年十一月廿四日御寫物仰付

明治二己巳年正月元日御湯御用相勤候ニ付熨斗目御紋付御半上下一具頂戴ス

同年同月十日御小納戸仰付

同年六月廿八日於御城御目付被仰付勤中祿高三百石ニ相成ル

同年八月廿四日於御前第八級監察被仰付

同年九月十日修道館授義輔申付米貳石五斗被下之

明治五年正月十八日於御廳去八月頑民暴動之節爲説諭本城立關並館南北兩門ニ差出候處彼是盡力候ニ付賞與

金一兩差遣候段西本權大參事ヨリ被申渡

同年十一月廿二日深瀬村八幡神社祠掌拜命

明治七年四月十六日二小區小學校教師トナル

同年十一月廿七日縣立師範學校へ入學時ニ年二十九歲

八年四月十七日卒業

同年四月廿四日小學正科教員申付ケラル

明治九年五月廿九日公立師範學校入學全十年六月十五日卒業二等訓導トナル

同十一年一月十八日賀茂郡志和西村學校訓導拜命

同年六月五日同校ヲ退キ同月十七日淺野學校教員トナル

同十三年七月廿八日同校改革ニツキ同校ヲ辭ス

同年九月廿五日佐伯中學校教師トナル

同十七年十二月廿六日佐伯漢文學學校教員トナル

同二十年四月一日佐伯高等小學校訓導兼校長トナル
 同三十年七月十九日山縣郡大朝尋常高等小學校長トナル
 同三十一年五月二日山縣東部高等小學校長トナル
 同三十四年八月十三日佐伯郡觀音村大字佐方ニ歸宅中感冒ノタメ病歿ス時ニ年五十六歲
 此ノ間賞ヲ受ケシコト二十九回ニ及ブ

墓石建設顛末

○大正二年八月十三日故竹本先生ノ第十三回忌ニツキ廿日市町潮音寺ニ舊門弟集合シ追弔法會ヲ營ミシ後先
 生ノ學徳追慕ノタメ碑表ヲ建設スルコトヲ協議決定ス其ノ要項左ノ如シ

- 一、碑表建設總經費豫算金五百圓
 - 一、材料 花崗石ノ切石
 - 一、出費方法 子弟一同均一ニ金壹圓ヅ、醸出スルコト
 - 一、委員長副委員長各一名委員十名ヲ設クルコト
 - 一、郡内各町村其他ニ二名乃至四名ノ地方委員ヲ囑託スルコト
- | | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 委員長 | 吉本菅太郎 | 副委員長 | 西 敬夫 |
| 委員 | 小田得一 | 吉岡岑次郎 | 谷峰信義 |
| | 高橋球瑠 | 國田政市 | 山根 照 |
| | 小泉來兵衛 | 澤 文吾 | 佐上甚三郎 |
| | 廣瀬保兵衛 | | |
- 其ノ後門人ヲ調査シ原簿ヲ作リシニ總員八百十六名アリキ

○大正五年八月十三日潮音寺ニ於テ追弔法會ヲ行ヒシ後先生ノ建碑並ニ彰德記念獎學資金設置ノコトニツキテ協議セリ其ノ決議要項左ノ如シ

一、竹本先生ノ懿德ヲ永遠ニ記念センガタメ獎學資金ヲ設ケ本郡ノ教育獎勵ニ供スルコト

二、獎學資金ハ壹千圓以上トシ五百圓ハ正木義太、佐伯好郎兩氏ノ盡力ニヨリ五百圓ハ地方委員ノ盡力ニ

ヨリ共ニ競争的ニ募集ニ努力シ豫定額以上ニ達セシムルコト

三、碑表ハ先生ノ菩提所タリシ潮音寺ニ極メテ質素ナル墓石ヲ新設シ其ノ殘金ハ之ヲ先生獎學資金ニ繰入ル、コト

四、役員ヲ左ノ如ク改選ス

委員長 正木義太

副委員長

高橋球瑠

委員 西敬夫

小田得一

吉岡岑次郎

吉本菅太郎

谷峰信義

國田政市

山根照

小泉來兵衛

澤文吾

佐上甚三郎

廣瀬保兵衛

○大正十四年八月十三日先生ノ第二十五回忌法會ヲ潮音寺ニ於テ營ミシ後建碑事業其他ニツキテ協議セリ其要項左ノ如シ

一、大正二年以來ノ懸案タル碑表建設事業戰時ノ僥倖ニヨル財界ノ好況ニ任セテ去ル大正五年建碑速成ハ

勿論獎勵資金設置案マデ速ニ成立セルモ其後財界ノ不況ニ陥リシ爲大頓挫ヲ來シ續イテ關東大震災アリ

遷延今日ニ及ビ二兎ヲ追フモノハ一兎ヲ獲ズトノ誹ヲ免レズ斯テハ第一先生ニ對シ第二ニ世間ニ對シ甚

ダ慚愧ノ至リニ堪ヘザレバ獎學資金設置案ハ遺憾ナガラ放棄シテ建碑丈ヲ一氣呵成的ニ成就セシムル事

一、費用釀出方法ハ任意寄附トスルコト

一、役員ヲ左ノ如ク改選ス

委員長 正木義太

委員 西敬夫

小田得一

吉本菅太郎

谷峰信義

山野井秀吉

丸龜小六

小泉來兵衛

天野幸太郎

佐々木幹三郎

佐伯健吾

澤文吾

森川奎二

瀨良文造

砂堀雅人

庶務係 西敬夫

吉本菅太郎

會計係 小田 得一 澤 文 吾

因ニ當日出席者ニテ金五百拾五圓ノ寄附記帳アリ大ニ勢ツケリ

經費豫算

一金壹千貳百圓

内 譯

金 七 百 圓

大墓石建設材料花崗石

金 貳 百 圓

除幕式費其他

金 參 百 圓

每年一回法要並ニ墓石維持費基金

○大正十四年十二月十三日委員會ヲ開キ左ノ事項ヲ協定ス

一、建碑ハ墓石型トシ石材ハ花崗岩ノ切石ヲ用フルコト

一、工事監督者ハ西、吉本、佐伯三委員ニ依託スルコト

一、墓碑ノ表面ニハ「竹本節先生墓」ト刻スルコト、シ其ノ揮毫ハ正木委員長ニナシ貰フコト

一、碑陰文ノ選並書ハ佐伯好郎、吉本菅太郎兩氏ニ委嘱スルコト

一、寄附募集ヲ元佐伯高等小學校ニテ竹本先生ノ下ニ奉職シ居ラレシ中江誠一氏ニ依頼スルコト

一、成ルベク早ク工事ニ着手シ來年陽春ノ候除幕式ヲ行フ様ニスルコト

一、寄附者ノ芳名ハ其金額ノ多少ニ拘ラズ全部銅版ニ刻シテ臺石ニ嵌込ムヤウニスルコト

○大正十五年三月十六日委員會ヲ開キ左ノ事項ヲ協定セリ

一、石工川本庄五郎、室尾某、中津龜吉、中津直吉、鯉川某等ノ提出セル建碑設計見積書ト圖面トヲ照合

シ工費ノ高下等ヲ判ジ遂ニ川本庄五郎ニ請負ハシムルコトニ確定シ本人ヲ呼出シ再ビ實地ヲ踏査シテ

更ニ實行圖面並精細見積書ヲ提出セシムルコト、ナセリ

一、右竣工期限ハ本年七月十日トスルコト

一、除幕式ハ先生ノ命日タル八月十三日ニ行フコト

一、工事監督ハ西、谷峰、吉本、佐伯四委員之ニ當ルコト

一、碑文ノ選並書ハ吉本委員ニ委託スルコト

○大正十五年七月十一日墓石据付ニ着手シ全月十五日ニ結了ス少シク期限ヲ經過セルハ墓石前方ノ增加工事アリシガタメナリ

碑表 前面

竹 本 節 先 生 墓

海軍中將正四位勳二等功三級正木義太書

碑表 裏面

竹本先生名節號嘯雲弘化三年十二月二十四日生於廣島白鳥父諱正順稱大十郎世什藝藩先生爲人長軀高體
眼光炯炯望之自有威資性謹嚴持己端正學通和漢善詩文及歌俳夙從事於藩內教育明治十三年九月奉職於佐
伯中學校中學校後改漢文學校再更高等小學校雖經變遷而先生依然在任至明治三十年七月其間十有八年勤
勉終始育英如一至誠力行長爲儀表其教訓門下閑邪擊蒙毫無假借而其溫情如玉愛才之篤當時不見匹儔至於
有從縣外負笈來學者先生教化之所及亦可謂廣且大也鄉黨子弟常景慕先生學德者於是胥謀乃勒其芳名於貞
珉而傳其德澤於不朽云爾

明治三十四年八月十三日歿

享年五十六歲

大正十五年七月十三日

門人一同建之

碑表側面

三十年の日はくれ竹の今もなほ

君かめくみの節しのひつゝ

門人吉本菅太郎選並書

大正十五年九月十五日 印刷
大正十五年九月二十日 發行

(北高貞品)

廣島縣佐伯郡平良村大字下平良百二十九番全敷

著作兼 發行人 吉本菅太郎

廣島縣佐伯郡廿四町三百四十一番地ノ一

印刷者 中丸伊吉

283
368

終